

成果の説明書

(氏名)片岡美喜	(学部)地域政策学部
1 重要事項 1. 研究成果 <著書> ・片岡美喜「学校給食市場と食育の展望」『講座これからの食料・農業市場学 5』日本農業市場学会編著,筑波書房, 2022.10 月. ・片岡美喜「第 3 章 農村の景観保全とグリーン・ツーリズム」『共感の農村ツーリズム：人の流動・経済循環を創りたい』河村律子, 中村均司, 中村貴子, 高田晋史 編著, 晃洋書房, 2023.1 月. <学会発表・その他研究発表> ・片岡美喜,高津英俊「農村景観に関する保全制度とその観光的活用」日本地域政策学会 第 21 回全国研究【宮城】2022 年 6 月. ・片岡美喜,高津英俊「世界農業遺産の観光活用の現状と課題—「大崎耕土」を事例として—」大崎地域世界農業遺産推進協議会、世界農業遺産「大崎耕土」認定 5 周年記念フォーラム内におけるポスター報告, 2022 年 11 月 18 日, 19 日. <学会大会個別報告・座長> ・日本地域農林経済学会 2022 年度大会 個別報告 第 3 会場 3-10,3-11, 報告座長 2022 年 10 月 23 日 <外部研究費> ・研究代表者：科学研究費基盤 (C)「世界/日本農業遺産地域を軸とした持続的な地域農業マネジメントシステムの形成要因」(2021 年～2024 年度), 研究課題/領域番号：21K05819 ・研究分担者：科学研究費基盤 (B)「気候変動に対する農業経営体次元での適応行動に関わる経営管理理論の構築」(2021 年～2025 年度、研究代表者：京都大学伊庭治彦), 研究課題/領域番号：21H02299 2. 教育活動 <担当講義について> ・地産地消・スローフード論 ・観光資源論 ・エコツーリズム・グリーンツーリズム特論 (大学院) ・エコツーリズム論 ・基礎演習、演習 I、演習 II 今年度は、対面での講義を実施した。講義用 Microsoft Teams 内でのきめ細やかな告知や双方向での質問受付等の対応、Slido などの双方向ツールを利用した講義に努めた。 また、講義資料および講義用スライドの改善を行い、講義内容の一層の充実を図った。そして、講義内課題の内容を匿名化したうえで学生の意見を相互にみられるように工夫を行った。これらの取り組みは、受講生から「他の受講生の意見を知ることができて理解が深まった」「このような工夫を続けてもらいたい」など好評であった。 <ゼミ活動について> 2 年生は調査に関する基礎学習を行ったうえで、2 班に分かれたグループ研究を実施した。一方の班は県立赤城自然公園におけるエコツーリズムの現状と課題、もうひとつの班は八ッ場ダムと周辺地域振興におけるエコツアーの実態調査を実施した。これらの成果は全国エコツーリズム学生シンポジウムにて発表した。八ッ場での研究は選考のうえ、壇上での研究発表をさせていただいた。 3 年生と 4 年生は、群馬県農村整備課事業「やまさと応縁隊」事業にて 2 課題を採択していただき、群馬県みどり市、道の駅尾瀬かたしなと協働した活動を実施した。	

4 年生は、道の駅尾瀬かたしなで店頭販売などができる商品として「花豆コロッケ」の開発を進めた。統計データを調べると、若者世代は豆類に馴染みが薄く、若年世代になればなるほど豆類の消費が少ない状況がわかった。現状を踏まえ、花豆の商品開発に加えて、広く花豆を知ってほしいことや、気軽に調理できることを伝えるために「花豆レシピ集」の製作に至った。同レシピ集は、道の駅尾瀬かたしなの乾燥花豆の売り場に設置し、買い物客に持参してもらっている。花豆コロッケは、道の駅尾瀬かたしな様が学生らのレシピを更に改良した試作をしてくださり、店頭での販売も視野に入れている。 3 年生は、みどり市において若者視点の観光 PR ツールの作成に係る調査・研究を実施した。その結果、フリーペーパー「みどりのミ」の発刊、市内の飲食店や酒蔵、パン店など、地域の農産物を PR する「KODAWARI MIDORI 食・農観光マップ」の制作を行った。今後、これらの成果はみどり市の観光振興・地域振興のツールとして活用し、学生らも利用者アンケートのモニタリングや、SNS 媒体を通じて活動を継続する。 これらの成果は、全国エコツーリズム学生シンポジウムと、県庁が主催したやまさと応援隊活動報告会で発表している。 先述の活動のほか、例年参加している本学、和歌山大学、広島大学、広島修道大学、琉球大学の近い研究領域のゼミナールで毎年合同の現地調査や研究交流を行う「五大学合同ゼミ広島大会」が 3 年ぶりに対面で開催され、2022 年 9 月に本ゼミ生 5 名とともに参加し、研究交流の機会を得た。
3. 学内業務 ・教務委員会 副委員長 ・学部および大学院の自己点検自己評価委員会 委員 ・地域科学研究所公開講演会 講師コーディネート・当日講師紹介,2022 年 10 月 14 日. 4. 社会活動 (1) 学会活動、その他地域活動 ・地域農林経済学会 第 24 期理事 (関東支部代表理事) ・日本農業経営学会 第 21 期理事 ・日本農学会運営委員 (2022 年 11 月より) ・研究学会誌の論文査読 (4 本) (2) 各種委員会 ・文部科学省 教科用図書検定調査審議会 委員 ・内閣府総合特別区域の専門家評価に係る委員 (まちづくり分野) (~2023 年度末退任) ・群馬県情報公開審議会 委員 ・群馬県環境審議会 委員 (~2022 年 7 月退任) ・群馬県自然環境保全審議会 自然環境部会 委員長 ・群馬県国土利用計画審議会 委員 (~2022 年 12 月退任) ・群馬県絹遺産推進委員会 委員 ・県立赤城公園 基本構想案 有識者意見交換委員 (2022 年 2 月~2023 年 3 月) ・みどり市観光振興計画策定委員会 委員長 ・国民宿舎サンレイク草木再生基本計画策定業務委託公募型プロポーザル審査委員会 審査委員 (2023 年 1 月) ・高崎市男女共同参画審議会 副委員長 ・軽井沢町 22 世紀風土フォーラムまちづくり活動支援部会 委員 ・地産地消コーディネーター (一般社団法人都市農山漁村交流活性化機構)
2 その他の事項
3 次年度以降の計画・抱負 次年度以降の抱負として、現地調査を増やし、さらに理論面、実証面を充実させた研究報告、論文執筆を行うことである。

